

平成29年度業務実績に関する評価結果に係る対応について

○評価委員会指摘事項に係る平成30年度の対応

指摘事項	<p>医学部にとって重要な指標となる医師国家試験合格率について、2カ年にわたり、自ら設定した目標値を下回っていることから、目標達成に向けて、より一層、学修の支援の強化等に取り組むことが望ましい。</p>
対応	<p>平成29年、平成30年の医師国家試験の結果を踏まえ、教務委員会及び教授会において教育・指導方策の分析・検証を行った結果、不合格者の傾向として、第6学年次成績と第4学年次成績が国試結果に関連している可能性が高いことを確認した。このため、カリキュラム委員会において2020年度カリキュラム改訂に合わせて教育評価方法の見直しを行っている。また、平成31年国試の対策としては、第6学年次における教育指導を見直し、目標達成に向けて次のとおり取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①平成29年度卒業認定の結果、原級留置となった学生に対し、専任の教育指導者(チューター)を配置し、定期的な面談機会を設け国試対策の教育指導等を実施。 ②平成30年7月に実施した模擬試験結果に基づく特別講義を卒業試験前に実施。 ③卒業試験実施後に例年行っている第6学年学生対象の事後講義に加え、国試対策に詳しい民間講師を招いた個別指導を一部学生に実施。 <p>以上の取組を行った結果、平成31年の医師国家試験合格率(新卒者)は98.0%に達した。 (目標値94.0%)</p>
指摘事項	<p>医師国家試験合格率低下の分析等を含め、今後の大学運営に関して、情報分析・政策分析がますます重要となると考えられることから、IR(Institutional Research)のより積極的な活用を期待する。</p>
対応	<p>教育に関する情報の収集及び分析をし、大学としての教育的な問題を明確化し原因追及を行うことにより、本学の教育水準の向上に繋げる事を目的とした統合IR部門を、医療人育成センターに設置することとし、その所掌事項や組織体制については、統合IR部門設置準備ワーキンググループにおいて、関係教員による検討を重ね、平成31年4月1日、開設した。</p> <p>医師国家試験対策としては、医学部における成績の推移と国試の合格率との関連性を分析するためのトライアル調査(1,3学年対象の学修環境調査)と平成30年度卒業見込みの医学部学生対象とした学部教育に関するアンケートを実施し、今後における医師国家試験対策等に活用できるデータ収集を行った。</p>